

ヨタカ



今日は「ヨタカ」という鳥を紹介します。

名前 ヨタカ

分類 ヨタカ目ヨタカ科

分布 日本では九州から北海道までの低い山の
林やその周辺に生息する夏鳥
(冬は南方の地域で過ごす)。



全長 約29cm

体の色 灰色の地に黒っぽい茶色のまだらもよう。

鳴き声 夕方から夜明けまで、大きく高い声で
「キョツキョツキョツキョツ」と続けて鳴く。

特徴

夜行性。夕暮れになると大きな口を開けたまま
飛び回り、ガや蚊など飛んでいる昆虫を捕らえてえさにする。
羽音はたてない。林の地面をそのまま巣にし、直接卵を産む。

名前の由来

夜のタカの意味。翼が細長くタカに似ている
ことから。平安時代から「よたか」と呼ばれていたが、
「蚊母鳥」や「蚊吸鳥」、鳴き声から「キュウリキザミ」といった別名をもつ。

ヨタカの卵
(実物大)



ヨタカの体の色は木の表面に似た模様と色をしています。日中は木の枝に体をそろえてとまって寝ているのですが、天敵から身を隠すため、木のこぶのように見える「保護色」となっているのです。

地面の上で落ち葉にまぎれていることもあります。右の写真ではどこにいるかわかりますか？



ところで、「ヨタカ」という名前に聞き覚えはありませんか？ そう、岩手県出身の作家である宮沢賢治の童話『よだかの星』の主人公ですね。ここではあらすじを途中まで紹介します。

★ 『よだかの星』（宮沢賢治）—あらすじ— ★

よだかはみにくい鳥です。顔は味噌をつけたようにまだらで、くちばしはひらたく、耳までさけています。そのためよだかは、ほかの鳥たちからきらわれ、いじめられていました。

また、タカからは、おれの名を返せ、市蔵と改名しろ、でないとつかみ殺すぞ、と言われます。

なんにも悪いことをしたことがないのに、見た目のせいできらわれる。よだかはつらくなり、巣から飛び出して夜の空を飛びまわりました。

口を大きくひらいて、たくさんの羽虫やかぶとむしをのみこんでいるうちに、虫を殺すことやタカに殺されることがつらくなり、餓えて死のう、遠くの空の向うに行ってしまうと考えます。

よだかは 弟のワカセミの所へ飛んで行き、さよならを言いました。

お日さまに「私をあなたの所へ連れてって下さい。やけて死んでもかまいません。」とお願いと、「ずいぶんつらからう。今度そらを飛んで、星にそうたのんでごらん。お前はひるの鳥ではないのだからな。」と言うお日さま。

そこで星たちに同じことをたのむと…

ヨタカはどうなるのでしょうか？

続きは本で読んでみてくださいね。



引用・参考 濱口 哲一、佐野 裕彦 1990年『自然ガイド とり』/ 三省堂編修所 1988年『コンサイス 鳥名事典』他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPにてバックナンバー公開中！

けんぱくものしりシート 『ヨタカ』

2024年11月発行 現勢・生物—No.29

■参考文献

- ・ 浜口 哲一, 佐野裕彦 1990年『自然ガイド とり』
- ・ 三省堂編修所 1988年『コンサイス鳥名事典』
- ・ 菅原浩, 柿澤亮三 1993年『図説 日本鳥名由来辞典』
- ・ 蒲谷鶴彦, 松田道生 2001年『日本野鳥大鑑 : 鳴き声 420 増補版 (CD books)』
- ・ 吉村卓三, 鈴木まもるほか 2014年『鳥と卵と巣の大図鑑 : 世界 655 種』
- ・ 真木広造, 大西敏一 2000年『日本の野鳥 590』
- ・ 清棲幸保 1978年『日本鳥類大図鑑 2 増補改訂版』
- ・ 岩手県生活環境部自然保護課 2014年『いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物(2014年版)』
- ・ 宮沢賢治, 中村道雄 1987年『よだかの星 (日本の童話名作選)』